

(西暦) 2018 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名

病院勤務経験のある新任訪問看護師の戸惑い

学位の種類： 修士 (看護学)

首都大学東京大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学域

学修番号 17894603

氏名：岸 純子

(指導教員名： 島田 恵 准教授)

目的：訪問看護の需要が高まる中、訪問看護師の確保および定着は急務の課題である。新任訪問看護師の大半を占める病院勤務を経てきた訪問看護師は、不慣れな新任の時期に、病院と在宅の違いに影響を受け、戸惑うことが多くあるのではないかと推測した。そこで本研究は、病院勤務を経て就職した新任訪問看護師が、どのような戸惑いを感じたか明らかにすることを目的とした。

方法：過去に病院勤務経験があり、現在都内の訪問看護ステーションに勤務する就職して3か月～1年程度の新任訪問看護師に対し、便宜的標本抽出法およびスノーボールサンプリング法を用いて研究協力者を募集した。7名の新任訪問看護師に対し、半構造化面接を実施し質的帰納的分析を行った。

結果：新任訪問看護師の戸惑いについて、【在宅で暮らす人に対する看護のイメージがつかない】【病院勤務経験と比較したギャップ感】【訪問看護で初めて経験する困難感】【今まで築いてきた個人の価値観や看護観から生じる疑問】【訪問看護師の役割と看護実践方法が見出せない】【ステーションの人々から支えてもらえないという思い】【病院勤務経験で培った自身の能力を疑う】の7つのコアカテゴリが抽出された。

考察・結論：病院勤務経験のある新任訪問看護師の戸惑いは、看護を提供する場の違いから生じるリアリティショック、および病院勤務経験によって形成されたスキーマを通して訪問看護と在宅療養を捉えようとする視点が根底にあると考えられた。

さらに新任訪問看護師は、初めのうちの訪問看護と在宅療養環境を漠然と捉えることによる戸惑いから、新任のうちにも訪問看護の経験を通して学習し、自身の持つ価値観や看護観を通して訪問看護や在宅療養環境を捉えることによる戸惑いへと変化していた。

これらの戸惑いは、指導者が新任訪問看護師のスキーマに対し無理解なこと、新任訪問看護師自身が、病院と違い訪問看護は1人で完結させなければいけないと認識していることや指導者から支援されていないと感じていること、看護の言語化の難しさといったことに影響を受けていると考えられた。戸惑いは、新任訪問看護師の過度の負担感や自信喪失、職務継続意欲の低下に繋がる可能性が推測された。

訪問看護ステーションの指導者は、各々の新任訪問看護師が持つスキーマを理解し、リアリティショックを想定した関わりをする必要があることが示唆された。